

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成20年9月18日(2008.9.18)

【公開番号】特開2003-88551(P2003-88551A)

【公開日】平成15年3月25日(2003.3.25)

【出願番号】特願2001-284739(P2001-284739)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F 13/53 (2006.01)

A 6 1 F 5/44 (2006.01)

C 0 8 J 3/24 (2006.01)

C 0 8 J 5/04 (2006.01)

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

A 6 1 F 13/472 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

【F I】

A 4 1 B 13/02 D

A 6 1 F 5/44 H

C 0 8 J 3/24 Z

C 0 8 J 5/04 C E P

A 6 1 F 13/18 3 0 3

A 6 1 F 13/18 3 0 5

A 6 1 F 13/18 3 3 0

C 0 8 L 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月5日(2008.8.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 吸水開始から 30 秒後における人工尿の加圧吸水量が 10 g / g 以下であり、吸水開始から 30 分後における人工尿の加圧吸水量が 20 g / g 以上である吸水性樹脂と親水性繊維とを含む吸収体。

【請求項 2】 上記吸水性樹脂の吸水開始から 30 秒後における人工尿の加圧吸水量が 5 g / g 以下であり、吸水開始から 30 分後における人工尿の加圧吸水量が 30 g / g 以上である、請求項 1 に記載の吸収体。

【請求項 3】 上記吸水性樹脂の生理食塩水に対する飽和吸水量が 40 g / g 以上である、請求項 1 または 2 に記載の吸収体。

【請求項 4】 上記吸水性樹脂の重量平均粒子径が 200 ~ 600 μm である、請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 つに記載の吸収体。

【請求項 5】 上記吸水性樹脂が疎水処理されている、請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 つに記載の吸収体。

【請求項 6】 上記吸水性樹脂が表面架橋されている、請求項 5 に記載の吸収体。

【請求項 7】 上記吸水性樹脂の割合が、上記吸収体の全体重量の 30 重量% 以上 100 重量% 未満の範囲である、請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 つに記載の吸収体。

【請求項 8】 液体透過性シートと液体不透過性シートとの間に、請求項 1 ないし 7

のいずれか 1 つに記載した吸収体を保持することを特徴とする、吸収性物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

液体不透過性シートとしては、たとえばポリエチレンやポリプロピレン、ポリ塩化ビニルなどからなる合成樹脂フィルム、これら合成樹脂と不織布との複合材料からなるフィルムなどが挙げられるがこれらに限定されるものではない。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

不飽和カルボン酸水溶液は、不飽和カルボン酸単量体以外の共重合成分を含んでいてもよい。共重合成分としては、たとえば(メタ)アクリルアミド、N-置換(メタ)アクリルアミド、2-ヒドロキシエチル(メタ)アクリレート、2-ヒドロキシプロピル(メタ)アクリレート、メトキシポリエチレングリコール(メタ)アクリレート、ポリエチレングリコール(メタ)アクリレートなどのノニオン性親水性基含有単量体；N,N-ジメチルアミノエチル(メタ)アクリレート、N,N-ジメチルアミノプロピル(メタ)アクリレート、N,N-ジメチルアミノプロピル(メタ)アクリルアミドなどのアミノ基含有不飽和単量体やそれらの4級化物などを挙げることができるが、共重合成分については特に限定されない。また、これらの不飽和カルボン酸水溶液に、デンプン、セルロースおよびそれらの誘導体、水溶性ポリアクリル酸(塩)およびそれらの架橋体、ポリビニルピロリドン、ポリビニルアルコールなどの親水性高分子などを添加してもよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0103

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0103】

〔実施例 11〕

製造例 6 で得られた吸水性樹脂(F)について、上述した方法により 30 秒後の加圧吸水量、30 分後の加圧吸水量、飽和吸水量、および重量平均粒子径を測定した。一方、製造例 6 で得られた吸水性樹脂 8 g および粉碎パルプ 18 g を用いて、上述した方法により、重さが 26 g、吸水性樹脂の割合が 30 重量%である吸収体を作製した後に、この吸収体から吸収性物品を作製して逆戻り量および拡散長を測定した。これらの測定結果は、表 1 に示した。